

乗員を疲れさせない 実力はNO.1



XC90に乗る、それは上質な道具を使うということ

4月からスタートした『TRUE VOLVO』は、その系譜を紐解きながら、あらゆる角度からボルボの魅力を検証していくシリーズ企画だ。前回までは予習編として約85年に及ぶ歴史をお届けしてきた。さて、今月はボルボのDNAが最も色濃く宿っているモデルとして、認定中古車.comが高く評価するモデル“XC90”を徹底解剖してみよう。そこには、決してぶれることはないボルボ・スピリッツがある。

政府の経済対策による高速道路料金の休日割引が始まった。そこで、関越道と上信越道を使って軽井沢へファミリーで1泊2日の小旅行に出かけるとしよう。ただし、交通量が多いだろう。特に、東京に戻る復路は20km以上の渋滞も覚悟したほうがよさそうだ。さて、どんなクルマを選んだら最も快適に移動できるのか？認定中古車.comは「XC90がいい!」と自信を持って答えたい。とにかく長時間にわたり運転しても、肉体的な疲労と精神的なストレスを最小限に抑えてくれるクルマなのだ。創業以来、過度なスポーツ性より安全性と快適性を重視してきたボルボ。その系譜が、いま最も強く感じられるのが本格SUVの“XC90”なのである。



XC90シリーズはボルボ初の本格SUVとして2003年に上陸を果たした。用意されたパワーユニットは2.5リッター直5の低圧ターボと3リッター直6ツインターボの2種。2005年に4.4リッターV8が追加された。そして2006年に実施されたマイナーチェンジで直6の排気量を3.2リッターに拡大、またこの時に直5ターボモデルがカタログから姿を消している。



ドイツ勢とは路線の異なる明るく開放感に満ちた室内。インパネのデザインも、見た目の高級感より視認性と操作性を重視している。これも、乗員を疲れさせないための工夫なのである。また、きっちり作られた3列目のシートを備えるのもポイント。

XC90は運転していてなぜ疲れしないのか 検証 その1 エンジン&サスペンション

高速走行が得意なクルマといえばスポーツカーやスポーツセダンだろう。背中を蹴飛ばされたような加速、異次元の速度領域……、そのスリリングな感覚こそが真骨頂だ。でもそんな走りを1時間も続けられれば、ドライバーとパセンジャーは、肉体と精神にかなりの負担をいられるのは言うまでもない。そう、ロングツアラーには加速力より「乗員を癒す力」が求められるのだ。

まずはXC90のパワーユニットとサスペンションを検証してみよう。搭載される直5／直6ユニットは、高速巡航での回転領域となる2000～3000rpm付近で自然に盛り上がり上がるトルクが頼もしく、且つナチュラルで扱いやすいのが真骨頂。ターボの利きとトランスミッションのセッティングが実に巧妙で、加速？減速の際に無粋なGがかから

ないのである。ボルボが過度な馬力とレスポンスを追求しないのは乗員に不自然なGを与えないためと考えていいだろう。

さらに、おおらかな味付けが施されたサスペンションも忘れてはならない。今どきのSUVは硬めでスポーティな足が主流だが、XC90のサスペンションは基本的にソフトでハーシュネスをきっちり遮断する仕事に徹している。だから一般的な速度で巡航していて疲れしないのだ。

XC90は運転していてなぜ疲れしないのか 検証 その2 ステアリングの感触

ボルボといえば、ちょっと“緩い”ステアリング・フィールをイメージされる方が多いだろう。でも、XC90のステアリングは、どんな速度域でも路面からのインフォメーションをきっちり伝えてくるし、中立付近の不自然なユルユル感もない。かといってスポーツカー

のような過敏さはなく、あくまで一般のドライバーが自然にコントロールできるように調整されている。このニュートラル感が長時間の運転でドライバーを疲れさせないステアリング・フィールの秘密と言えるだろう。

XC90は運転していてなぜ疲れしないのか 検証 その3 居住空間

XC90の基本設計は、全長4.8m以内であること、そしてしっかり座れる3列目のシートを備えること、この2つが主要なテーマだったという。開発陣は、雪道などでの高い走破性ととも、ミニバンのように使えるファミリーカーとしての役割もXC90の大きな仕事と考えていたのである。そのコンセプトは、乗り込んだ瞬間にわかる。スポーツカー的な囲まれ感のあるドイツのSUVに対し、XC90の室内はとにかく明るく開放感に満ちている。高級というより

上質な室内と表現したほうがいい。各シートも楽な姿勢がとれるように、大ぶりでソフトに仕立てられている。また、インパネの前面が傾斜しているから前方視界も良好だ。主流となっているドイツ流を模倣せず、ボルボらしい独自路線を貫いたのは「乗員を疲れさせない」という同社の系譜を貫いたからなのである。

XC90は運転していてなぜ疲れしないのか 検証 その4 安全対策

「安全に安心して走らせることのできるクルマ」、これは創業者が掲げたボルボの理念でもある。XC90にも、約85年にわたり各モデルに受け継がれてきたこのDNAが安全対策は3つに分けて考えられている。まずは横転しにくくすること。これは重心を低めることで実現した。そして第二に横転

の危険に陥ってしまった場合。それを未然に防ぐため、最新の電子デバイスを駆使して、ロールスピードを計測し、ブレーキを個別に作動させたりエンジンの出力を絞るなどして対策が施されている。第三は横転してしまった場合。これに対しては、Bピラー周辺に強靱な素材を用い、エアバッグや3列目のシートにもプリテンショナー付きシートベルトを装備することでパッシブセーフティを向上させている。備えは万全なのだ。

XC90は上質な道具

XC90の魅力は、見ただけ、ちょい乗りしただけ、またスペックだけでは解らないだろう。生活のいろんなシーンで使ってみてその良さが理解できるのだ。つまり日常生活のなかで使ってナンボのクルマなのである。そう、ボルボXC90に乗る、それは「いい道具」を使うということなのだ。

TEXT：野田義彦

